

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。
～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 事例蓄積・活用WG

2017年6月29日

2020年目標

多様な社会的インパクト評価事例があらゆる地域で
1000事例蓄積され、活用されている

1. 「多様な」とは？

各項目（目的、分野、地域、評価手法、評価の成熟度、組織形態、活用方法等）が幅広く網羅されていること

2. 「蓄積」とは？

事例の各項目等が整理されてデータベースに登録されていること

3. 「活用」とは？

蓄積された事例が評価プロセスの効率化、評価品質の向上、事業改善や効果的な取組の展開、また、その先にある社会的インパクトの拡大等に利用されている状態

2. ロードマップ（社会的インパクト評価事例の事例蓄積・活用）

社会的インパクト評価事例の蓄積・活用



3. 事例蓄積・活用WGが2017年度に目指すこと・やること

テーマ

基盤整備

目指すこと

社会的インパクト評価100事例が公開され、活用できる状態

やること

1. 既存情報の収集

社会的インパクト評価に関する取組みを収集する

2. 事例の要件及び公開レベルの整理

事例として登録する要件・表示する項目等を整理し、状況に応じた項目の公開レベルを設定する

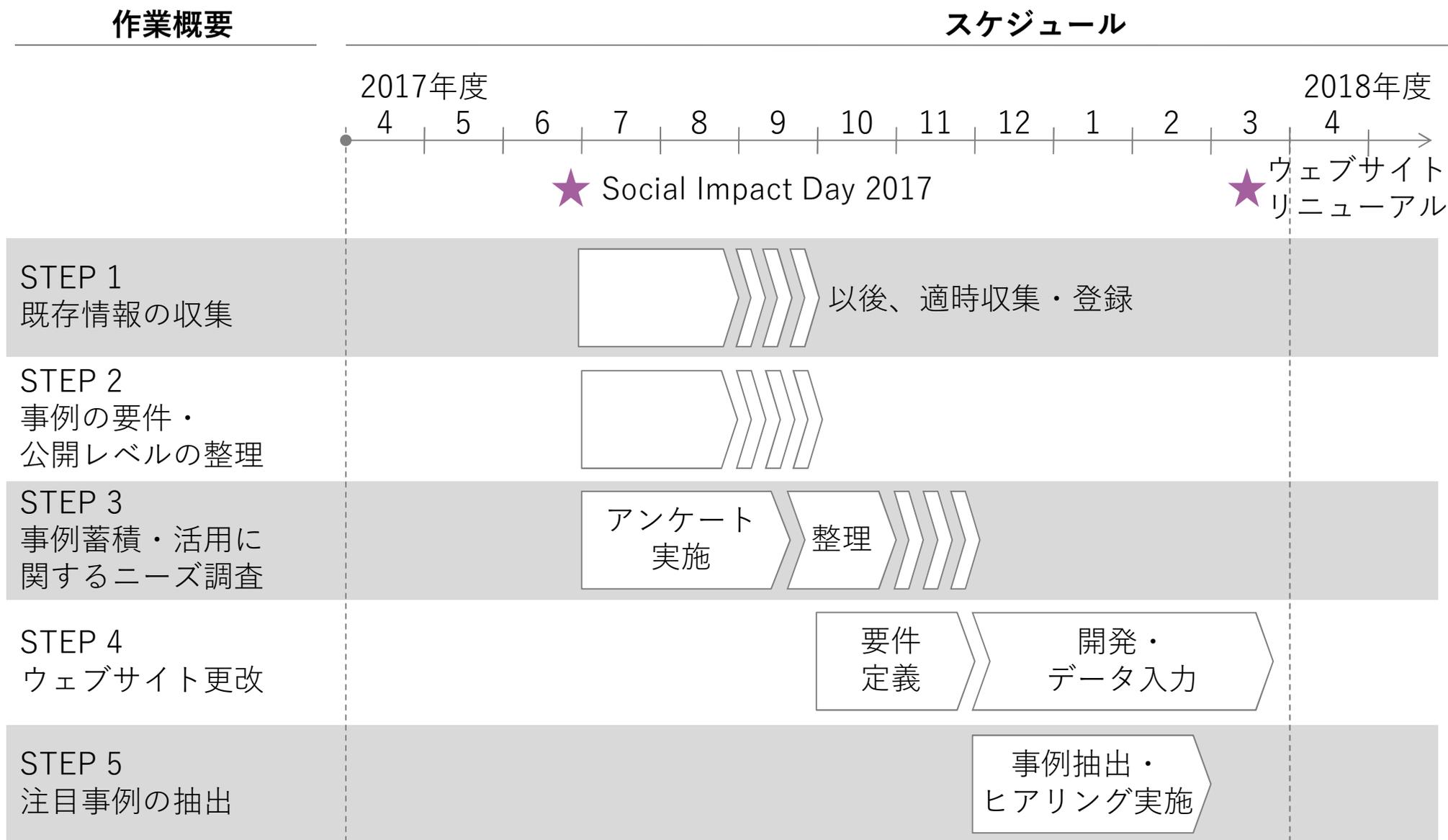
3. ウェブサイトの更改

事例をデータベースに登録するとともに、利用者が欲しい情報を心地よく利用できるようにウェブサイトを変更する

(例) ・ 欲しい情報へ容易にアクセスできる

・ 報告書だけではなく、領域別成果指標を一覧表示できる等

4. 事例蓄積・活用WGのアクションプラン



5. 事例蓄積・活用WGのコアメンバー

コアメンバー

No.	氏名	所属	役職
1	井上 健士	公文教育研究会	社長室調査企画チーム
2	大澤 香織	特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会	プログラム・ディレクター
3	大沢 望	特定非営利活動法人SROIネット ワークジャパン	監事
4	落合 千華	ケイスリー株式会社	ディレクター
5	◎幸地 正樹	ケイスリー株式会社	代表取締役
6	高木 麻美	新日本有限責任監査法人	マネージャー
7	塚本 亜紀	日本アイ・ビー・エム株式会社	社会貢献担当部長
8	野中 さやか	富士ゼロックス株式会社	CSR部社会貢献グループ

◎WGリーダー

6. 皆さまにお願いしたいこと

1. 社会的インパクト評価に関する取組みの情報提供
2. ウェブサイトの内容や使い勝手に関するご意見

※本イベント終了後、アンケートをお送りしますのでご協力をお願い致します